

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401028		
法人名	(医)みどり会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	大阪府枚方市長尾北町2-1846-1		
自己評価作成日	平成28年6月20日	評価結果市町村受理日	平成28年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で、入居者様と、職員が共に生活を営むといった環境を作る様配慮している。毎月1回・・・ボランティア様に来て頂き入居者様、家族様、地域の皆様と共に楽しい時間を過ごしています。毎月4回・・・家庭的な雰囲気味わえる様な食事作りを行っています。又気候の良い時期は庭先でバーベキューなどもしております。毎月1回・・・併設の栄養士監修の下おやつ作りをしております。毎月1回・・・たんぼぼ独自のチラシを地域の方、施設に関わる事業所に配布しております。気候の良い時期は、外気浴をし気分転換を図って頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺にはまだたんぼも多く残り、川があり、学校があり、学校もある住環境・生活環境の良好な地域に位置している。系列の老健が敷地内に隣接しているが、外観及び内部の雰囲気は単独施設のように感じられる。俳句が趣味の利用者の句「つばめの巣 見上げて喚声挙げにけり」事業所に巣を作った「ツバメ」を詠んだ句である。花見・菖蒲見学・流しそうめん・夏祭り・敬老祝賀会・Xマス会など職員が用意した季節を感じてもらおう行事が企画されて、ゆっくり、一緒に、楽しく過ごせる事業所づくりに職員が家族の協力を得ながら取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、誰にでも目が付く所に掲示してあり、日々の申し送りやスタッフ会議などで話し合い、意識付けを行っている。	グループホームに求められている、地域とのふれあいが表現された理念を作成し、事業所のわかり易い場所に掲示されている。職員は理念を念頭に入れて行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアを受け入れまた、地域の夏祭りなどにも参加させて頂き交流に務めている。	系列の介護事業所と協力して地域福祉活動(老人会、ふれあいサロンなど)への参加を通じた交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート講座研修を受講し地域の会館を利用して頂き認知症サポーター講座を開催し住民の方に認知症の理解をして頂ける様にしている。又、月に1度家族様、地域の皆様と共に茶話会を開いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議の場で構成メンバーの方と入居者、職員と共に昼食を摂ってから普段の入居者様の様子を見て頂いた後事業所の報告を行い、そこでの情報を職員に周知しサービスの向上に活かしている。	地域の代表者、地域包括支援センター職員、家族代表が参加して2か月に1回の頻度で開催し、会議を通じた意見交換の結果を事業所運営に活用している。	会議では事業所からの活動状況や利用者の様子、改善への取り組み事例が報告されているが、会議議事録について会議の様子が判るように記載されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例などに関して、電話での質問に correspond してもらったり、市役所に出向き尋ねたりしている。又、介護相談員を受け入れ入居者様の声を聞いてもらう様にしている。	利用者個々の事例について個別に行政と相談し支援方法に活かす。また介護相談員を受け入れてオープンな事業所運営に結び付けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵の施錠、言葉による拘束なども、身体拘束になる事を理解の上、拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠はせず常に見守り離脱時はそっと同行している。	日中は玄関の施錠をしない介護が行われている。自由で開放的な雰囲気が利用者や家族に喜ばれている。職員は身体拘束防止の研修を受けマニュアルの整備が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、理解しご相談に来られた家族様にもさりげなく虐待防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、活用出来る様に周知も図っている。又、問い合わせがあれば、地域包括支援センターへの照会なども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い不明な点などは、丁寧に聞き取る様にしている。料金改定の際には、説明を行い、同意書を頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月のお便りの中で気軽に意見を述べてもらえる様配慮している。又月に1回の施設イベントに参加して頂き後、茶話会を開き気軽に意見を述べれる様に配慮しています。	家族の訪問頻度も多くあり、家族と協力して利用者を支えている様子を見ることができた。利用者の健康状態や日頃の様子を詳しく報告している。	職員が家族あてに毎月報告している手紙の控えを事業所に残す工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションや、スタッフ会議の中で意見を述べる機会を設けたり職員全員で施設独自のチラシ作りをしており意見を述べる機会を多く設け日々の支援に繋げれる様に努めています。	定例に開催されるスタッフ会議では自由な雰囲気職員が意見交換している様子が議事録に記入されている。管理者も常に利用者の様子を気に留め、全体のチームワークの要となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、経営会議や、理事長会議の場で現場の意見を吸い上げる様、努力をしている。又管理者は、個々の職員の実績や努力を把握しやりがいのある職場になる様努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や、隣接施設の委員会に参加し勉強する機会を設けている。入居者様に対しての日々の支援においては、都度、指導、伝達をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回枚方市グループホーム連絡協議会に於いて他施設に見学に行ったり、自施設の受け入れをしたりと交流を図りサービスの質の向上に繋がる様、務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や聞き取りで、課題を拾い上げ、本氏とコミュニケーションを多く図り本氏の想いを組みとり話を傾聴し行動を抑制せず安心していただける様支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際や、入居時の面談などで不安な事や希望などを丁寧に伺い、職員全体で検討し、安心して頂ける様な支援が出来る様に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で、本人や家族の希望や課題を探り、しっかり話し合いの下、支援する様に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩に「学ぶ」という姿勢は崩さず、一緒に食事を摂ったり、わからない漢字を教えてもらったり、出来る事は手伝ってもらったりし対等な関係で接していく様に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の心情、事情も汲み取り共に支える様支援している。又、月に1度は自宅に帰り家族団らんの時間も作って頂ける支援しています。又疎遠になりがちな家族様にも連絡を取り面会にきていただける様支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や手紙、電話などの要望があれば、対応し支援している。又、馴染みの場所へと足を運んだりと支援している。	家族の協力を得ながら、外部の俳句の会への参加や年賀状など、利用者の以前からの人間関係が途切れないような支援を行うように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や状況を把握し共に楽しく過ごして頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者への情報提供をする と、共に、契約終了後も家族様との相談に 乗る様努めている。又、気軽に立ち寄って 頂ける様な雰囲気作りに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位 に検討している	職員はご本人の気持ちをよく聴く様に努め 意向の確認を行い、把握する様努めてい る。また、確認が困難な場合は利用者 様の視点に立って話しあい取り組む様にし ている。	訴えの少ない利用者や本人の意思の把握が 難しい場合でも、職員は時間をかけて本人と 向き合い、他の職員とも情報交換して、本人 本位の介護支援の実現に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等の 把握に努めている	家族様や担当ケアマネ、利用先のディサー ビスの職員から情報収集し生活歴や環境 の把握に努める様にしサービス利用に生 かす様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報提供にて平等に支援できる 様努め毎日のバイタルチェックや食事摂取 量の記録前日の睡眠などの情報の下1日 の過ごし方をや精神的状態の把握に努め ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、 現状に即した介護計画を作成している	最低1回/3ヶ月のケアカンファレンスを行 い、又必要に応じて随時モニタリングを行 い意見を出し合い検討している。家族様と も連絡を取り合い都度本氏にとって良い方 法を検討している。	定例のスタッフ会議の場でカンファレンスを行 い、介護計画書との整合性の確認、支援方 法の改善案の意見交換を行い、医師や家族 の意見を聞き介護支援計画書の見直しに繋 がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工 夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	日々のカルテ記入や、申し送りノートでの 記録により、情報の共有に努め、又、スタッ フ会議の場で職員間に意見を聞き見直し に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニー ズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる	体調管理の為の、往診や、認知症進行予 防の精神リハビリ体操、又は回想法などを 取り入れた生活リハビリを行い支援に努 めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや近隣商店の方に買い物の協力体制などお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、家族の希望を優先し、従来からのかかりつけ医への継続的な受診が出来る様支援している。又、協力病院をかかりつけとする場合は、家族の同意と納得を得ている。家族様希望により往診時Drに質問できる様な時間も設けている。	本人及び家族の意見を優先し、以前からのかかりつけ医での受診を希望する場合は対応している。担当医と連絡を密にして、早期対応による医療支援体制が構築されており家族の満足度も高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のなごみの里のDr、Ns又は訪問看護師と連携を図り、必要に応じて指示や処置を受けられる様にしている。必要に応じてかかりつけ医に受診にいっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、病院に出向くなど病院関係者への密な情報提供に努めている。又こまめに病院に出向き本氏の状態の確認を行い早期に退院できる様病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族様の意見を確認し、主治医、協力病院などと協議の上、事業所として出来る範囲の事をその都度明示し、話し合い支援の方向を決めている。	重度化した場合の対応については入所の段階で事業所の方針を説明して同意を得ている。家族の意向を確認してかかりつけ医と相談し、事業所としての支援方法を家族に説明して理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、救命急処置、AEDの使用方法、などの研修を受け、受けている。事務所には緊急時の対応マニュアルを常備しすぐに対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の他、シュミレーション訓練を行っている。又、災害時に備え備蓄食(3日分)保存している。	火災・地震等を想定した訓練を併設の事業所と連携した自衛消防組織が構築されている。非常食等の備蓄も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守る大切さを理解し尊厳を損ねない対応に心がけている。 日々の支援の中で言葉かけには、特に気を配っております。	利用者との対話方法、呼びかけ方、利用者の尊厳への配慮等について併設施設を含めた委員会が構築されており、職員は研修を受け、実践し、高齢者への対応について学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、思いや願いを表に出しやすい関わりを心掛けている。出来る限り本人の希望に沿う支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活に於いても個々のペースに合わせる様に務めている。入居者様の話に傾聴しその方にあった方法を考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個々に合わせて季節に応じた服を用意し又、個々に希望の服を選んでいただきおしゃれを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事を楽しめるような雰囲気作りをしている。又週1回の食事作りにおいては、庭先で食事したりお弁当を作ったり楽しんでいただける様な工夫をしている。	基本は隣接の老健施設の調理部門のサービスを受けている。利用者のADL低下により、以前のように出来にくいが残存能力を活かした食事作りを楽しむ機会を作っている。職員も一緒に食事する家庭的な雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老健の管理栄養士による栄養価計算、食事摂取量の記録、又1日の水分量を確保する為にペットボトルにお茶を入れ水分補給を行い、その都度声かけし水分摂取の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後それぞれのレベルに合わせた口腔ケアへの支援を行っている。又、1日の終わりには、義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄の失敗は尊厳を損なう重要な事項である事も理解し排泄パターンを把握するなど、それぞれに合った排泄の支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを記録してリズムや特徴を把握して、自立した排泄習慣の維持を目標に支援を行っている。タイミングの良い事前の声掛けが行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの便秘の原因を検討し、それぞれに合った予防や工夫に努めている。おやつには腸内環境に良い物を提供し、水分強化、服薬調整などに心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴して頂ける様ひとりずつ入って頂いております。一応の曜日は決まっているが、柔軟に変更するなど対応している。又、入浴時には職員と楽しくコミュニケーションを図りながら入浴して頂いております。	基本的な入浴日は決めているが、本人の意向を優先し、体調や気分の変化に合わせた柔軟な対応を行っている。職員との会話を楽しみながら落ち着いてゆっくり入浴してもらえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の健康管理を図る為に昼食後1時間程度臥床して頂いております。又、夜間も個々に対応をし良眠出来る様にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬内容を理解し、体調の変化を観察し医師への情報提供に努めています。又誤薬等が無い様、3回のチェック体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を活かし個別に支援しています。(買い物、囲碁の会の参加、カラオケ、散歩、ドライブ、お茶会、等)気分転換を図ったり、毎月1回のイベント、家族会なども楽しんで頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事、結婚式など特別な行事に関しては、家族様協力の下、実地している。日常的な散歩や買い物、近隣のお墓参りなどは本人の希望で外出支援を行っている。	職員は、家族と相談しながら、法要、祝い事、墓参りなどの外出や、日常の散歩・日光浴など外気に触れる、季節を感じる外出の機会作りに工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、所持金を各自管理して頂いたり必要に応じて事務所での管理も行っている。又、本人希望の際は職員付き添いの下自由にお金を使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族様への電話、友人知人への手紙など必要に応じて個別に対応している。又、近隣の郵便局に同行し本氏自身が手紙なども出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者様と一緒に作成した、アートフラワーの飾り物などを行っている。又入居者様が、自分で居室に戻れる様、わかり易く表示する様にしている。	門から玄関にかけて緑の配置が工夫されている。内部は清掃が行き届き、ADL低下による転倒予防等の安全対策への配慮がされている。2階居室の表示も利用者個々に合わせた内容となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファベットを置き少し集団から離れたい様な時には利用頂ける様にしている。座る場所も入居者様個人個人の性格なども考慮し、居心地の良い空間となる様に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々の馴染みの物を置いて頂いたり、出窓には、家族の写真、本氏の昔作られた思い出の品物などを飾っています。又、精神的に落ち着いて頂ける様にCDを置き、童謡などを流しリラックスし良眠出来る様配慮しています。	居室は清潔である。家族の協力を得て、本人が落ち着いて過ごせるように家具や備品については馴染みの物を自宅から運んで貰っている。写真や思い出の品を飾り、本人が居心地良く出来るような雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレなどは分かり易い様に明示している。個人の居室は車椅子からベットに移乗しやすい様柵の位置を夜と昼替えたり事故の無い様配慮している。		